

# ザ・かんなし by かんなし

九州のある土地にとっても強く強い体・度胸・精神力をもった奴がいる。さらにその中には人間として持つべき「威厳」をもちあわせつけない男達がいるのである。強い体をもち威厳をわけていない男達はその男達は当然のことくけんかでもなせなうは「痛サヒが負ける」とかをいっさいかんしな!!



「せからしかせからしかー! へたなうたはせからし〜〜かん! 旅人のどなりにすわったかんくろうは取っ払はじめた。と吐上り分取つてくる旅人はそれはもういきなりであった。旅「おう!! 今んはだれのつかい! せからしかちめんはオレのうたかこら! おまは風呂に果てうたれて帰ってきたか、こりやあー!」とって洗面器の水をジャブッ! とかんくろうにかけたのであった。シーンの静かであった。その一瞬はす〜く静かであった。そして次の音は... 「クッククック...」 「フッフッフ...」 下を向いてかんくろうはなんと笑っているのである。そしてさらに続けた。 「俺はな〜んもしとらんぞ! 俺はうたはかうた! いった。そしてたなりのおぢやんが俺はどまりつて木ばかけた。せん木がきたなか水で...。みんなみたな〜! 俺し〜いとうほろ〜いば! とうやいなやバキーンッ!! いきなりぶらおけて旅人」の頭をうちつけたのである。旅「うまいた〜! なんはあ〜とか〜!

か「はからしかー! せら俺の言うにったー!! うりやあ! かんかんカーンおけで巨頭をたたき音である。それを聞いた旅人の弟分が「兄貴ー!!」と声をかけた。それをきいたかんくろう「おまも頭わるか? こりやあ!」 その声で弟分はびびり、その場にハナハナと座なりこんだのであった。またかんなし。風呂場に何十回いや何百回おけの音があったことか。



旅「ま... まんかこら、わ... わるかった俺がわるかった...」 旅「だ... だけんもうよか、ゆるしてくれ。たのむけんゆるしてくれ」 旅人はいきなりのおけ攻撃にたじろになりぶらぶらと湯にねとびこんだのであった。仁王立ちになったかんくろう。興奮状態もすめて息も落ちつき一段落と思えた。と、その時。彼はいつたのである。

「みんながせっかく果てくぶらに入っつとに、おまへのおかげでこぎん状態になら。悪かてほんとは思ふならな...」

「石けんはくえ!」 なんとかんくろうはまたまたかんなし発言をしたのであった。「石けんはくえ、石けんは!」 「石けんはうまかぞー!」 どう言いかから湯にねとびこみ後3からはがしいぬにしろ 「わか、とつとかー。またおけで」 うたろーつたつとかー」といながら手に持っていた充分にどけられた石けんをほぼ新しいまま□の中におしこんだのであった。やはり強い。みんなに旅人もごつい体をし、強気の木青神をもつといふやうにやいりかんくろうには歯が立たないのである。



しかしつづく可愛い奴である。このあたりで許してやろうと思ふ時はないのか? それから3つの石けんを食べ、世文字通り旅人に「あわをぶかせた」のであった。全裸での約30分のバトルはまたもやかんくろうをバズ・オグ・かんなしの地位につけてはまった。あるつぐ...